

第40回「発展途上国研究奨励賞」(2019年度)

表彰作品

『サルゴフリー 店は誰のものか：イランの商慣行と法の近代化』（平凡社）

著者 岩崎 葉子 日本貿易振興機構アジア経済研究所 開発研究センター
企業・産業研究グループ長

サルゴフリーとは、イランの商業地で売買される店舗用益権の呼称である。サルゴフリーを購入した店子（店舗貸借人）はほぼ恒久的にそこを占有・使用することができる。本書は、サルゴフリーの売買にまつわるイランの商慣行が、二十世紀初頭から現在までのおよそ百年の間に、それをめぐる法律とともにどのような歴史的変遷を辿ったかを論じるものである。もともと店子（店舗貸借人）どうしの間だけにあったこの権利の売買慣行に、ある「近代法」が介入し、地主（店舗所有者）までもがその取引に巻き込まれていくことにより、慣行全体が変容を遂げ、あらたな経済システムが出来上がっていく。本書がこのサルゴフリーの物語に光を当てるのは、それがじつは、イスラーム法と西欧近代法との「不測」の軋轢とその克服というべききわめて貴重な歴史的経験にほかならないからである。イスラーム世界の法と経済の相克を描く画期的研究。

『エ・クウォス——南スーダン・ヌエル社会における予言と受難の民族誌』（九州大学出版会）

著者 橋本 栄莉 立教大学 文学部 准教授

本書は、スーダン地域における「予言者」の歴史的生成過程を明らかにするとともに、ヌエル社会において語り継がれてきた予言が、人びとの紛争経験や出来事をどのように形づくってきたのかを、約19か月の現地調査に基づき明らかにしようとするものである。19世紀に存在したヌエルの予言者ングンデンによってつくられた予言の歌は、現在に至るまで歌い継がれ、ヌエルの人びとが苦難の経験を語るすべとなってきた。「エ・クウォス」とは、ヌエルの人びとがさまざまな出来事に直面した際に「予言が成就した」という意味合いで用いる表現である。本書は、内戦、平和構築、悲願の国家独立、そして再び内戦へと突入する南スーダンの動乱の時代に、予言者への信念と疑念の間で揺れるヌエルの人びとが、さまざまな想像力とともに不幸や不条理を語る技法を探究したものである。

推薦著作 単行書 29点（重複分除く） ※2018年度は31点（重複分除く）

選考委員会

委員長	田中 明彦	政策研究大学院大学 学長
委員	上田 元	一橋大学大学院社会学研究科 教授
	大塚 啓二郎	日本学士院会員
	栗田 禎子	千葉大学文学部 教授
	藤田 幸一	京都大学東南アジア地域研究研究所 教授
		(以上50音順)
	深尾 京司	アジア経済研究所長

表彰式および受賞記念講演 2019年7月1日（月）13:30～15:00（予定）
場 所：JETRO アジア経済研究所 C21 会議室